

# 友好関係を築いた朝鮮通信使

## ～海路でつながる朝鮮と日本の歴史～

### 国書の〇〇を實行？

#### 驚きの国交回復裏話

日本と朝鮮との関係を取り持つ役割を担っていたのが、対馬藩の宗氏であった。豊臣秀吉の朝鮮出兵によって両国の国交は断絶したが、江戸時代になり徳川家康の朝鮮との国交回復を願う気持ちによって、対馬藩の宗氏が両国の間に入って交渉を行うことになる。

ところが、朝鮮側が出した講和条件は、家康から朝鮮国王に宛てた国書を送ることだった。当時、先に国書を送ることは相手の国に従うことを意味し無理難題な条件であった。そこで、宗氏が行ったのはなんと国書の偽造。家康の国書を偽造して、朝鮮国王に送ることにした。

この宗氏の作戦は大成功。朝鮮国王はこれ信じ、家康の国書に対する返礼として五百名にのぼる使節団が日本に派遣されることになった。ここで宗氏は再び国書偽造を行い、朝鮮国王から家康に宛てた国書のすり替えにより日朝の国交は回復した。

しかし、藩ぐるみの国書偽造は、対馬藩家老の柳川調興の内部告発によって明るみになり三代将軍家光のもとで裁かれることになった。家光の出した裁定は、「宗氏、お咎めなし」家光は、断絶していた両国の国交を回復させた宗氏の働きを大いに評価したのだ。

## 徳川家光



「通信」とは、両国が信義を通わすという意味です。將軍の代替わりの祝賀や、両国間の外交課題の解決のため、国書を携えて来日しました。その他にも、日本の政治や地理の調査、さらに両国関係が安定してくると、地元の人たちとの学術的な交流がメインになっていきました。

### 下関市立歴史博物館

#### 松田和也学芸員に聞く

「朝鮮通信使は、いつから始まったのですか？」  
室町時代から始まり、江戸時代まで、合計十七回来日しています。どこを通ったのですか？」

ソウルから釜山まで行き、船で対馬、下関、大坂、さらには淀川を上り、京都からは陸路で名古屋、箱根を通って江戸に行きました。日本に来た目的は何ですか？」

### 見るだけの料理!?



### 過酷な海原を越えて

#### 朝鮮通信使四五〇〇kmの旅

### 一年にも及ぶ旅

江戸時代の朝鮮通信使は、しばらくの間対馬に留まっていたのち、壹岐、筑前相ノ島を経て下関に寄港した。この旅では、波が荒く危険な対馬海峡と玄界灘での航海が最大の難関だったため、下関に無事到着した朝鮮通信使は、その緊張感から解放された。下関からは、波穏やかな瀬戸内海を航行し大坂に至り、大坂からは淀川を通過した。淀川を上る際には、西国の諸藩が用意した川御座船に乗船した。



淀川上りに使用された長府藩の川御座船

下の絵は、長府藩が淀川上りのために用意した川御座船を描いた図で、御座船の後方には五隻の船が付き従っている様子も描かれている。全ての船には、長府藩毛利家の家紋である一文字三星の旗が掲げられている。川御座船は、喫水の浅い川船に二階造りの豪華な館を設けた、朱塗りの優美な船であった。朝鮮通信使の旅は、漢陽(現在のソウル)から江戸までの往復四千五百km、一年にも及ぶ過酷なものであった。

### OMOTENASHI

一七二一年(正徳元年)に、五百名の朝鮮通信使が下関を訪れた。その時の応接(朝鮮通信使御馳走)は、幕命により長州本藩の萩藩と支藩の長府藩が行った。その内容は、客館の新築、波止場の修築、海上及び陸上の警備、通信使船の曳航、食事の提供や、酒・菓子・果物・特産品の贈答などであった。長州藩による御馳走のための動員人数は、四千五百二十九人、徴収船舶数は八百三艘だった。

### コラム2 朝鮮通信使の好物は？

一般庶民が朝鮮通信使の行列を描いたメモ書きには、『きふり是又好物二て江戸中之胡瓜皆買上二て下官共丸かふり夫故きふり私底二成候』とある。これは、「きゅうりもまた好物で、江戸中のきゅうりを買って占めて、下級の役人たちが皆丸かじりしている。だからきゅうりが品切れになった。」という意味。また、大飯食らいで酒好きで、りんごも好んで食べたそうだ。



朝鮮通信使の行列

### 朝鮮通信使・上陸記念碑

二〇〇一年、下関市阿弥陀寺公園に、朝鮮通信使上陸記念碑が建立された。朝鮮通信使は、一六〇七年から一七六四年までの間に、十一回にわたり赤間関(下関)に上陸している。朝鮮通信使が下関に寄港したのは、気象条件が違ふ玄界灘と瀬戸内海を安全に航行するための潮待ち、風待ちが大きな理由だった。



### クイズ(・w・)

朝鮮通信使が江戸城に登城する日は、なんと江戸の町人は休日となり数十万人の人々が通信使見物に出かけた。ここでクイズ。朝鮮通信使が来るたびに見物人向けに作られたあるものとは一体何か答えよ。

- A 旗 B ガイブック C 遠眼鏡

#### 参考文献

- \* 下関市史・別巻(下関市発行)
- \* 下関と朝鮮通信使(下関市発行)
- \* 延享五年朝鮮通信使登城行列図

クイズの答え B ガイブック(本屋で大人気!)

### 編集後記

今回の新聞を作るために現在の開釜航路や開釜航路の歴史、朝鮮通信使について調べました。開釜航路は、貿易を行うだけでなく日韓友好のきっかけをつくる場でもあると思いました。室町時代から始まった日本と韓国との友好関係がこの先も続いてほしいです。



下関市立歴史博物館